

石狩川下流域外減災対策協議会 雨竜川外地域部会(第9回)

- 堤防の決壊や越水等に伴う氾濫に備え、河川管理者、北海道、市町村等の関係者が連携して減災のための目標・取組方針を共有し、社会全体で常に洪水に備える「水防災意識社会」を再構築することを目的とし、ハード・ソフト対策を一体化、計画的に進めており、その取り組み状況についてのフォローアップ等を行うため雨竜川外地域部会を開催した。

日 時：令和7年2月19日（水）10：00～11：30

開催方法：WEB会議

構成員：北海道開発局（札幌開発建設部）
滝川市、砂川市、深川市、奈井江町、浦臼町、
新十津川町、妹背牛町、秩父別町、雨竜町、北竜町、
沼田町、幌加内町、上砂川町、歌志内市
気象台（札幌管区気象台、旭川地方気象台）
北海道（空知総合振興局、上川総合振興局、
札幌建設管理部、旭川建設管理部）
北海道電力㈱、北海道警察

オブザーバー：国土地理院（北海道地方測量部）
北海道運輸局
北海道旅客鉄道㈱

報告のあった自治体の取り組み事例

- ・ 避難訓練、防災訓練（避難所運営ゲームHUG の活用）、防災教室、出前講座等の実施
- ・ 各種広報活動（ホームページ、広報誌、コミュニティFM、地デジ広報、SNS、避難所運営ゲーム）
- ・ 防災ガイドマップ、ハザードマップの更新、配布
- ・ 災害対策拠点となる庁舎、防災倉庫の建築
- ・ 災害関連計画の見直し、要配慮者利用施設における避難計画
- ・ 防災無線の設備更新、避難所、公共施設に防災Wi-Fiの配備
- ・ 移動式の通信環境車両を保有している業者と連携協定 など

地域部会の様子（WEB開催）



自治体等主な会場



札幌開発建設部



滝川河川事務所

※写真を掲載しているのは参加者（会場）のうちの一部です



滝川市長

- 防災教室を実施し、ハザードマップの見方や避難のタイミング、過去の水害発生事例等の講話、防災情報アプリの紹介、避難所資機材(ダンボールベッド、ワンタッチパーテーション)の組立・設置体験、災害用ポータブルトイレの疑似体験や防災や減災に対する意識向上と備蓄の普及・啓発を行った。
- 滝川高校では、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)における防災学習の中で、出前教室を行い、防災・減災の意識向上と啓発を図った。
- 自衛隊、警察、消防、市の4機関合同により、災害対策本部を想定した状況付与型の図上訓練を実践的な形で実施した。
- 滝川消防署庁舎に設置している予備送信設備により、コミュニティFMを活用した防災情報送信訓練を実施した。



砂川市

代理出席：総務部

- 水害タイムライン研修を行い、職員を対象に防災行動の確認・整理を行った。
- 小学校で1日防災学校を行い、防災かるた・防災カードゲームなどを行い、防災への理解を深めた。
- 市長が国土交通大学校の水害に対する研修トップフォーラムに参加した。
- 住民への伝達方法として、「広報すながわ」・UHBの地デジ広報・LINEの公式アカウントなど様々な手段による広報の実施。
- 出前講座でハザードマップの説明や避難所運営ゲームDo はぐを実施して、災害対応、避難所運営に関する理解を深めていく取組を行った。



深川市

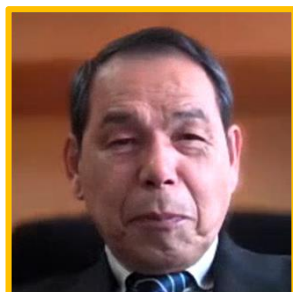
代理出席：建設水道部

- 防災教育として出前講座による防災教育を実施し、町内会長等とともに避難所における地域防災の組織化を行った。
- 新庁舎完成に伴い、業務継続計画の改定を行った。今後も市民の意見を聞きながら、計画等の見直し及び防災訓練等の実施を予定である。
- 要配慮者利用施設における避難計画作成・訓練の取組を行った。
- 自然災害防止事業、緊急災害自然防止事業を実施し、多度志のエイチャン川、音江地区の吉住川の護岸整備を進めながら、ハード面での防災・減災対策を進めている。



奈井江町長

- 奈井江中学校では無通告及び奈井江商業高校にて避難訓練を実施した。町が指定している避難所の体育館に災害発生直後を想定したプライベートルームや多目的簡易ベッドの設置を行い、防災ガイドマップ、ハザードマップについて説明を行った。
- 町民を対象に地域防災セミナーとして、北海道防災教育アドバイザーにより講演と災害図上訓練を行った。
- 災害対策拠点としての救援活動や災害復旧活動が可能な新庁舎が完成した。今年には防災倉庫が完成予定である。
- 避難所や想定される危険区域、各種災害の備えなどを掲載した防災ガイドマップとハザードマップを新たに作成しているところである。



浦臼町長

- 毎月発行の町広報誌へ防災コーナーの連載や洪水内水ハザードマップ・各種防災情報をホームページで公開し、日頃から防災関連情報の周知を行っている。
- 町内会における防災対策の基本的事項や自主防災組織の役割の周知、地域住民を対象とした出前講座の実施。職員は防災知識の習得やスキルアップのため、防災研修や避難所運営訓練など被災時に備えた実践的な取組を行なっている。
- 業務継続計画における重点事項を整理し、非常時の優先業務の見直しを行った。備蓄品整備計画の改定、必須となる食料品・生活必需品、資機材等の確保・充実に努めている。
- 陸上自衛隊滝川駐屯地の協力のもと、小・中学生及び一般参加者を含めた140名規模の防災訓練を実施した。



新十津川町

代理出席：災害対策事務局

- 防災教育として、各地域の自主防災組織が避難所において、避難所を開設できるシステムチックな避難所開設キットというものを全地域に導入した。
- 医療機関・福祉施設において、非常用電源の設備の支援を行い、地震における2次避難所、公共施設に防災Wi-Fiを配備した。
- ハザードマップに感染症対策を盛り込んだ改定を行い全町的に配布を行った。
- 災害時における通信インフラの重要性の観点から、移動式の通信環境車両を保有している業者と連携協定を締結した。



妹背牛町長

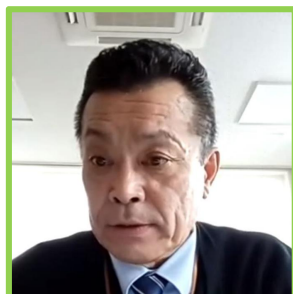
- 町防災担当者が講師となり非常食の試食体験、札幌管区気象台職員を講師にワークショップを実施した。
- 役場庁舎非常用発電設備の整備、移動系無線のデジタル化、避難所等における使用可能な移動式発電機の整備、災害時備蓄庫の整備を行った。
- 感染症対策をふまえた避難施設の準備、携帯電話会社とエリアメールを活用した避難場所等の周知、地域住民を中心とした避難所設営訓練を行った。
- ハザードマップは、町民への全戸配布を行っている。



秩父別町

代理出席：副町長

- 小・中学生を対象にAEDの使用体験、人形を用いた心臓マッサージ体験などの1日防災学校を実施した。
- 防災行政無線のデジタル化を実施し、各世帯に戸別受信機を無償貸与した。温泉周辺施設の電力を蓄電池を活用した太陽光発電で賄う地域マイクログリッド設備を設置した。
- 各種体験を通じた防災訓練の実施、町内会単位での自主防災組織の設立、それらの支援も行っている。
- ハザードマップを更新して、全戸配布を行った。



雨竜町長

- 気象庁による防災ワークショップを若手職員が中心となり開催を行った。防災気象情報についての解説、気象情報に関する用語や、段階的に発表される情報の発令のタイミングなどの基礎知識について講話を札幌管区気象台予報官により実施した。
- 1日防災学校を雨竜高等養護学校にて、避難所の設営訓練、段ボールベッドや防災テントの組立・設営を行い、避難所資機材の使用体験を実施した。
- 防災行政無線の全更新を行い、1回の操作で戸別受信機、メディアへの同時配信（LINE等）ができるシステムを導入した。戸別受信機は全世帯に貸与している。



北竜町長

- 北竜町は戦前から台風や大雨により氾濫が頻発し、大きな被害をもたらしてきた。先ほど紹介のあった治水伝承の碑はそういった部分から建設したものである。
- 小学校にて、防災教育に関する取組を行った。
- 建設業者各社とBCP、業務継続計画を持ち、町と防災計画を結んでいる。
- 防災行政無線を使い、全町民に防災備蓄倉庫が完成したことを伝えた。



沼田町長

- 赤十字奉仕団の総会、1日防災学校場でハザードマップを活用した避難場所・避難経路の確認、防災気象情報と警報伝達、避難行動の理解促進を図った。
- 5行政区の自主防災組織の結成をし、各地区において段ボールベッド組立等の防災訓練を実施した。
- 福祉避難所への災害時優先給油への登録を申請し、10月に農村部の避難所の非常用発電機と外部給電装置の始動点検実施を行った。
- 能登半島地震による広域応援として、町が加盟してる災害派遣トイレネットワークの仲介で、石川県の珠洲市にトイレトレーラーの派遣を実施した。
- 避難情報の発令判断と伝達マニュアルの改正、昨年の7月の雨竜川洪水発生時に、川の防災情報や気象台からのホットラインと併せて、避難指示発令判断に活用した。



幌加内町長

- 管理職向けに旭川地方気象台の方を講師に研修会を開催した。
- 幌加内高等学校を会場に開発局・上川振興局の協力のもと、防災教育における研修を実施した。
- 関係機関と一緒に災害懇談会を開催した。



上砂川町
代理出席：副町長

- 中学生を対象とした1日防災学校を実施し、町の災害備蓄品を用いて非常食の作り方や簡易トイレの使用方法などを体験した。
- 自衛隊など関係機関の協力のもと、避難訓練やドローン飛行による避難誘導試験、炊き出しの試食、道庁危機対策局より自主防災組織の必要性について防災講話をし、住民参加型の防災訓練を行った。
- 未使用のプール管理棟を防災備蓄庫に改修した。
- 防災行政無線を整備する予定であり、屋外スピーカーや戸別受信機の設置にかかる実施設計を行い、既存の登録制メールや町公式LINEの運用などを含めた伝達手段を進めている。



歌志内市長

- ハザードマップの更新予定である。
- 各種防災に関する広報等での市民への周知を行った。
- 希望町内会など団体へ防災ハザードマップを用いた説明会を開催した。
- 職員や市民を対象に災害を想定した避難訓練などを行った。
- 市内で災害発生を想定した避難所運営ゲームを行いながら、避難所運営に対する知識の習得、自助・共助の理解促進など防災意識の向上を図った。



雨竜川外部会長
滝川河川事務所長

- 各自治体が防災教育・訓練・防災情報の発信方法の取り組み方を把握するとともにそれぞれの方法が参考になった。
- ご発言をいただいたタイムラインの作成については、自治体のみならず開発局としても全面的に協力させていただきたい。
- 避難所運営ゲームHUGにおける説明を行った。ぜひ利用して防災の取組の一環としていただきたい。